イベントレポート 『2011　GT耐久東海シリーズ　第5戦』

開催日　2011 年 12 月 11 日（日）
　　13:00 決勝スタート　　16:00 チェッカー
天候　　晴れ
最高気温　11.5℃（13 時）
場所　　スパ西浦モーターパーク
参加台数　24 台

24 台のエントリーとなった第 5 戦。12 月ということで肌寒い中でのレースとなったが、天候は快晴で絶好のコンディション。最終戦ということで各クラスともシリーズポイントの行方が注目される中、熱い戦いが繰り広げられた。

■「1＋2」クラス（1500cc 以下の NA 車と、1200cc 以下のターボ車）

第 4 戦終了時点でのシリーズポイントは、1 位の No.110「アライメント浜松シティー」が 55 点、2 位の No.16「プロジェクトTスターレット」が 50 点、3 位の No.56「COCPIT高橋N＋EP91」が 49 点と、上位 3 チームが三つ巴の状態。今回の結果次第では入れ替わりの可能性もあり、各チームの順位が注目される。
また今回も 1000cc のヴィッツ、NA のストーリア、1.3L のスイフト、マーチスーパーターボと、バラエティーに富んだ車種が参加し、異種格闘技の如くしのぎを削る戦いが繰り広げられた。

■予選

予選 1 番手となるタイムをマークしたのは No.16「プロジェクトTスターレット」。1'02.383 の好タイムで、2 番手以下を引き離す絶好のポジションを手に入れる。
2 番手は No.56「COCPIT高橋N＋　EP91」が 1'05.458 で続き、こちらも逆転シリーズ優勝に望みをつなぐ。
3 位から 5 位までは 8 秒台での争いとなる。3 位の No.17「カムコこだわりの1．3スイフト」は 1'08.062、4 位の No.34「東海YEG自動車倶楽部シティ」は 1'08.790、5 位の No.12「カムコパッショーネマーチ」は 1'08.813 を記録する。
以下、6 位に No.449「金沢工大自動車部ストーリア」、7 位に No.26「ルブロスPROFITヴィッツ」と続く。
シリーズ 1 位の No.110「DXLアライメント浜松シティー」は予選早々にコースアウトを喫し、痛恨の最後尾スタートとなってしまう。

■序盤

予選 1 番手からスタートの No.16「プロジェクトTスターレット」は、スタート時のマージンを十分に活かし、1 時間経過時点では 47Lap と 2 位以下を大きく引き離す。
2 位には最後尾スタートから猛然と追い上げた No.110「DXLアライメント浜松シティー」が大きくポジションアップし、43Lap まで周回を伸ばす。
3 位と 4 位はともに 42Lap で、No.56「COCPIT高橋N＋　EP91」、No.34「東海YEG自動車倶楽部シティ」と続く。

以下 5 位の No.26「ルブロスPROFITヴィッツ」と、6 位 No.17「カムコこだわりの１．３スイフト」はともに 40Lap、7 位の No.449「金沢工大自動車部ストーリア」は 38Lap で続く。

■終盤

2 時間が経過した時点でもなお No.16「プロジェクトTスターレット」が 1 位の座を守り続け、周回数は 90Lap を記録する。
2 位には No.110「DXLアライメント浜松シティー」が付けるが、1 位との差は 2Lap ある。
3 位の No.34「東海YEG自動車倶楽部シティ」は 83Lap、4 位の No.17「カムコこだわりの１．３スイフト」と 5 位の No.26「ルブロスPROFITヴィッツ」は 82Lap と、表彰台懸けた争いが繰り広げられる。
以下 6 位に 79Lap の No.56「COCPIT高橋N＋ EP91」、7 位に 77Lap の No.449「金沢工大自動車部ストーリア」と続く。

■最終結果

好位置からスタートした No.16「プロジェクトTスターレット」が、一度もトップの座を譲ることなく 1 位でチェッカーを受けた。周回数は総合 1 位から僅か 1 周ダウンの 134Lap を記録した。
2 位には最後尾スタートから追い上げた No.110「DXLアライメント浜松シティー」が 132 周でチェッカーを受けた。スタートポジションの遅れを最後まで取り戻すことはできなかった。
3 位には終盤で挽回した No.56「COCPIT高橋N＋ EP91」が 125Lap で入った。
今年初参加となった No.34「東海YEG自動車倶楽部シティ」は 124 周を走り切り、久々のレースを 4 位で終えた。
以下、5 位の No.17「カムコこだわりの１．３スイフト」が 123 周、6 位の No.26「ルブロスPROFITヴィッツ」が 122 周と僅差で続く結果となった。

シリーズポイント争いは、最終戦の結果を受けて No.16「プロジェクトTスターレット」と No.110「DXLアライメント浜松シティー」が共に 70 点で並ぶことになった。
シリーズポイントが同点の場合、ルール上では大きなポイントを多く持っている方が優位となるが、共に優勝が 2 回に 2 位が 2 回とポイントの大きさでも並んでいる。
この場合、最も大きなポイントを後のレースで獲得した方が優位になるため、最終戦で優勝した No.16「プロジェクトTスターレット」に軍配が上がり、シリーズ優勝を確定した。
3 位には 61 点の No.56「COCPIT高橋N＋ EP91」が入り、シリーズ上位 3 チームは全てオープンクラスに属する車両が入る結果となった。
しかしシリーズ途中にはクローズドクラスに属する 1000cc のマーチが勝利を収めたこともあるため、来シーズンはクローズドクラスの車両の奮起を期待したいものである。

シリーズ表彰　１＋２クラス

■3Cクラス（1501～2000cc の NA 車と、1201cc～1800cc のターボ車の、改造範囲の狭いクラス）

今回は 9 台のマシンがエントリーした 3C クラス。

シリーズポイント争いは、No.830「URG　WM　CLNシビック」が 55 点で 2 位の No.28「アクセントBスターレット」に 9 点の差を付けている。これを 3 位の No.111「S ‘tec　AE－1ファジートレノ」が 38 点で追いかけ、ここまでがシリーズ優勝の可能性を残している。シリーズ 4 位で 30 点の No.33「海老天ミラージュ國盛」は今回欠場のため、同ポイントの No.106「D＆Mプジョー106」は完走すれば表彰対象圏内の 4 位を獲得できる。

■予選

予選 1 位となったのは初エントリーの No.536「ACCENT. Bシビック」。タイムは 1’01.183 をマークして、総合でも 1 位のポジションをGETする。

2 位前回の優勝チーム No.28「アクセントBスターレット」でタイムは 1’02.812 を記録。アクセントBチームのマシンが上位を占めることになる。

3 位は No.106「D＆Mプジョー106」が 1’04.462 で続く。4 位の No.111「S ‘tec　AE－1ファジートレノ」は 3 位から遅れること僅か 0.1 秒で続き、シリーズ 3 位の座を争う 2 台が予選でも僅差のポジションとなる。

5 位には No.450「味長持ち 3 時間アコード」が 1’05.772 で続き、第 2 戦以来の表彰圏内を狙う。

以下シリーズトップの No.830「URG　WM　CLNシビック」は 1’07.399 で 6 位、7 位に今期初参加の No.52「MSCJ奈良ロードスター」が続く。

■序盤

決勝開始から 1 時間時点での 1 位は No.28「アクセントBスターレット」で 46Lap を周回する。

2 番手には同チームの No.536「ACCENT. Bシビック」が 44Lap で続き、スタート時とは順位が入れ替わったものの依然アクセントBチームの 2 台が上位を走る。

3 位には 6 番手からスタートの No.830「URG　WM　CLNシビック」が大きくポジションアップし 2 位と同一の 44Lap で上位を追いかける。

4 位から 6 位までの 3 チームは 43Lap の同一周回。4 位に No.106「D＆Mプジョー106」、5 位に No.31「イケダレーシングSDCシビック」、6 位に No.111「S ‘tec　AE－1ファジートレノ」と続く。

■終盤

2 時間が経過した時点では再び No.536「ACCENT. Bシビック」が 1 位に上がってくる。ラップ数は 91 周を記録し総合でもトップに立つ。2 位には No.28「アクセントBスターレット」が 90Lap で続き、なおも同チームが上位をキープする。

3 位には No.106「D＆Mプジョー106」が 89Lap で続き、シリーズ逆転 3 位の可能性に望みをつなぐ。

4 位の No.830「URG　WM　CLNシビック」と 5 位の No.111「S ‘tec AE－1ファジートレノ」は 87Lap の同一周回で表彰台圏内を目指してラスト 1 時間に挑む。

以下、6 位の No.31「イケダレーシングSDCシビック」は 86Lap、7 位の No.450「味長持ち 3 時間アコード」は 85Lap で、表彰対象圏内を懸けた争いを繰り広げる。

■最終結果
ラスト 1 時間で上位 3 台の差が縮まり、1 位から 3 位までが 135 周の同一周回という僅差での勝負となった。
この争いを制したのは、予選 1 番手からスタートし常に 1 位争いに絡んでいた No.536「ACCENT. Bシビック」であった。
続く 2 位には終盤猛然と追い上げた No.830「URG WM CLNシビック」が入り、チームアクセントBの1・2フィニッシュを阻止すると同時に、シリーズ優勝を決定した。
終始トップ争いをしていた No.28「アクセントBスターレット」は、2 位に 17 秒届かず 3 位でフィニッシュとなった。
4 位には 132Lap で No.106「D＆Mプジョー106」がチェッカーを受けたが、シリーズ 3 位の座を争う No.111「S ‘tec AE－1ファジートレノ」が 130Lap の 5 位でゴールしたため、シリーズ 3 位争いは No.111 に軍配が上がった。
表彰圏内の 6 位には、No.31「イケダレーシングSDCシビック」が 129Lap でチェッカーを受けた。

最終戦の結果を受けて、シリーズ優勝はポイント 70 点の No.830「URG WM CLNシビック」に決定した。当チームは第 2 戦でリタイヤしたものの、優勝 2 回と準優勝が 2 回という磐石の強さであった。
シリーズ 2 位には、こちらも優勝 2 回の No.28「アクセントBスターレット」が 58 ポイントで続いた。
今回の結果如何では入れ替わりの可能性があった 3 位争いは、No.111「S ‘tec AE－1ファジートレノ」が順位を死守した。
4 位に終わった No.106「D＆Mプジョー106」は開幕戦にエントリーしなかったためのノーポイント分を、残念ながら挽回することが出来なかった。
今シーズンは延べ17チームがエントリーした3Cクラス、来年度も激戦区となるのであろうか。

火気厳禁
19

シリーズ表彰　3Cクラス
火気厳禁
2
1
3

■3Oクラス（1501～2000cc の NA 車と、1201cc～1800cc のターボ車の、改造範囲の広いクラス）

シリーズ優勝の可能性を残すのは、No.83「URG WM CLNシビック」と No.19「YADOKARIシビック」の 2 台であったが、No.19 は前戦でブローしたエンジンの修理が間に合わず最終戦は無念の欠場。
このため No.83 が今回の結果を待たずにシリーズ優勝を決めたが、最終戦で有終の美を飾れるのか、もしくは他のチームが意地を見せるのか。

■予選

予選 1 位となったのは、1'01.486 をマークした No.18「T－BODYエクセルインテグラ」。このチーム、昨年は No.83 と最終戦までシリーズ優勝を争った実力を持つが、今年はインテグラにマシンをチェンジしたものの、本調子が出ないまま最終戦を迎えてしまった。
2 位は No.83「URG WM CLNシビック」で、トップから遅れること僅か 0.02 秒。最終戦を優勝で飾るための好ポジションを確保する。
3 位は No.6「ソーワフレミングシビック」で、タイムは 1'04.855 を記録し、上位にホンダ車が連なる結果となる。
4 位には唯一の AE86 である No.2「NGRSレビン」が入る。タイムは 1' 05.344 をマーク。
以下 5 位に No.80「ハガクリニックシンワサクソ」、6 位に No.45「ボクのシルビア」と続く。

■序盤

スタートから 30 分時点では、1 位に No.83「URG WM CLNシビック」、2 位に No.18「T－BODYエクセルインテグラ」というオーダーになるが、その差は何とわずか 1.5 秒。
この 2 台によるトップ争いが続くかと思われたが、1 時間が経過したあたりで、No.83「URG WM CLNシビック」は駆動系トラブルに見舞われリタイヤとなってしまう。
1 時間経過時点での 1 位は 45Lap の No.18「T－BODYエクセルインテグラ」。これを 1 周差の 44Lap で No.6「ソーワフレミングシビック」が追いかける。
3 位の No.80「ハガクリニックシンワサクソ」は 40Lap と上位 2 チームとは少し差が開いてしまう。
以下 4 位の No.2「NGRSレビン」は 36Lap、5 位の No.45「ボクのシルビア」は 31Lap となる。

■終盤

2 時間が経過したところでの 1 位はなおも No.18「T－BODYエクセルインテグラ」。周回数は 90Lap を記録。
2 位には No.6「ソーワフレミングシビック」が 88Lap で続き、ラスト 1 時間での逆転に望みをつなぐ。
3 位は No.80「ハガクリニックシンワサクソ」は 82Lap を走行。4 位とは 6Lap の差があるため、順調に完走すれば表彰台を狙える状況。
4 位の No.2「NGRSレビン」は 76Lap で、表彰台は厳しくなってくる。
5 位は 66Lap で No.45「ボクのシルビア」が続く

■最終結果

最終戦での優勝を飾ったのは、135Lap を走りきった No.18「T－BODYエクセルインテグラ」であった。今シーズンは終始マシントラブルに見舞われたが、今回の優勝で 2011 シーズンを気持ちよく締めくくった。
2 位には 133Lap を走りきった No.6「ソーワフレミングシビック」が続いた。このチームもマシントラブルが続いていたが、今回は見事ノントラブルで準優勝をもぎとった。
3 位の No.80「ハガクリニックシンワサクソ」は 128 周でゴール。このチームも今年は開幕から 2 戦連続でリタイヤと、マシントラブルに泣かされたが、最終戦では大きなトラブルなく走りきり、表彰台を獲得した。
終盤 4 位を走っていた No.2「NGRSレビン」は、チェッカーの直前でピットインしたためチェッカーを受けられずにレースを終了となったため、規定によりチェッカーを受けたチームよりも後の順位となってしまう。
この結果 4 位には 105 周の No.45「ボクのシルビア」が入り、120 周を走った No.2「NGRSレビン」は 5 位に終わった。

今回リタイヤに終わった No.83「URG　WM　CLNシビック」であったが、50 ポイントでシリーズ優勝をものにした。
シリーズ 2 位には、今回欠場となった No.19「YADOKARIシビック」が 40 ポイントで続いた。シリーズ 3 位は、今回準優勝を飾った No.6「ソーワフレミングシビック」が 35 点で入った。
今シーズンの３Ｏクラスは、毎戦必ずマシントラブルによるリタイヤが出た。来シーズンは、いかに信頼性のあるマシンを作り込んで来られるかが、シリーズを優位に進める鍵となりそうである。

シリーズ表彰　3Oクラス
火気厳禁
19
19
2
1
3